

最優秀賞

「おじいちゃん、れきしって楽しいね」

宮城県 堀内^{ほりうち}夕太朗^{ゆうたろう}さん 小学3年生

ぼくが、れきしずきになったのは、きょ年のたん生日の時、おじいちゃんにれきしの本を買ってもらったのがきっかけでした。

みなものよしつねを読んでいたらお父さんがおうしゅう平泉につれていってくれました。そして金色どうに行きました。ピカピカかがやいて、こんなきれいなものがよく作れたなあと思いました。べんけいのおはかにも手を合わせました。

だてまさむねを読んでいるときは、せんだいじょうあとと、ずいほうでんにつれていってくれました。ずいほうでんには、だてまさむね公のおはかがあります。ずほうでんはもっと大きかったのにせんだいくうしゅうでやけてしまいました。せん台じょうもやけてしまいました。せん台くうしゅうがあった日は、七月十日、ぼくのたん生日です。うれしいけど悲しい日です。本丸が見たかったなあと思いました。

いちばんすきなぶしょうは、真田まさ幸です。真田まさゆ

きのどこがすきかと言うと、二千と言うすくないへいで、とく川家やすのへいをおいかえたのがすごいと思いました。いつか上田じょうに行ってみたいです。

ぼくがまつおばしょうを読んでいたときは、山寺につれていってもらいました。ばしょうと弟子のそらのぞうがあり、いっしょにそこにいる気ぶんになりました。同じ所を歩いていたのかなと思い、感どうしました。

「ぼくもばしょうと同じ旅をしてみたい。」とお父さんに言ったら、「大きくなったら行ってもいいよ。」と言ってくれました。とても楽しみです。

「月日は百たいのかかくにして行きかう年もまた旅人なり」と読んでいます。れきしの本を読むと平安時だいに行ったり、せん国時だい、え戸時だいに行った気になります。

おじいちゃん、ぼくをれきしずきにしてくれて本当にありがとうございます。

審査員のコメント

●興味や探究心を湧かせる感性の素晴らしさを感じます。その感性と感謝の気持ちが、そのままタイトルに乗り移っていますね！おじいちゃんに乾杯です！ 誤字や脱字があるのも小3らしくて、そのままほほえんでしまいました。(橋本先生) ●祖父が歴史書をプレゼントしてくれたことがきっかけで様々な歴史書を読むようになったこと、父に連れられて歴史建造物を実体験し、様々な時代に興味を抱くようになったことが説得的に述べられている。読むものを惹きつける文章構成力と精緻な筆運びに脱帽した。(内田先生)

優秀賞

「大好きな家族へ」

埼玉県 佐藤^{さとう}亜香里^{あかり}さん 小学3年生

いつもはしっかりしているお母さん。だけど、ときどきうっかりする時もあるよね。

雨の日にまどをしめわすれて家の中がびしょぬれになったり、カギやけいたいをどこにおいたかすぐわすれてさがしているよね。この間は電子レンジが「ピーピー」となったのにれいぞうこを開けていたのしってるよ。

「またうっかりしちゃった」と言っているお母さんはわらわせてくれる。

そんなうっかり母さんに、お父さんはおとぼけ父さんってよく言われてるね。何かたのんでもすぐわすれちゃって、さいそくすると「そうだっけ？ たのまれたっけ？」と聞こえてないふりしてとぼ

けるお父さん、わたしはイライラすることもあるけど「おとぼけ父さんだからしかたがない」とお母さんとわたしはわらってしまう。そんなうっかり母さんもおとぼけ父さんもわたしは大好き。うっかり母さんとおとぼけ父さんの子どもでわたしはよかったと思う。まい日家の中が明るくて楽しいから。ありがとう。

さいきんわすれものや計算ミスをするわたしをあわてんぼうあかりさんとお母さんはわらって注意してくれる。それもうれしい。

うっかり母さん、おとぼけ父さん、あわてんぼうのわたし、そんなおもしろい家族がわたしは大好きです。

審査員のコメント

●ホワッとしたおとぼけと素晴らしい子供の観察眼。夢のような楽しい、あったかい家族ですね。ストレス社会の中で、こんな家族こそが、今求められているのではないのでしょうか。(橋本先生) ●実にほほえましい家族の姿が描かれています。「うっかりお母さん」「おとぼけお父さん」、そして「あわてんぼうのわたし」。ネーミングがうまいです。明るい会話が弾む食卓の風景が浮かんできます。(明石先生)

優秀賞

「おそらのひいおじいちゃんへ」

高根県 ^{たかき}高木 ^{よしみ}善美さん 小学1年生

だいすきだったぼくのひいおじいちゃん。おそらからぼくたちをみてくれていますか。きょねんのなつにびょうきでおわかれしたときはとてもかなしかったけど、ぼくがなくていたらひいおじいちゃんもかなしいとおかあさんにおしえてもらったよ。だからわらってまいにちがんばっているよ。

ひいおじいちゃんがまもってくれたたんぼをいまはおとうさんやおかあさんといっしょにまもっているよ。おこめづくりはとてもたいへん

だね。くさはすぐにのびるし、いのししやさるからもまもらないといけないしね。ひいおじいちゃんはひとりでぜんぶしてすごいなとおもったよ。いままでおいしいおこめをありがとうね。はじめてぼくたちのつくったおこめがきのうとれたからおそなえるよ。たべてね。

これからもかぞくみんななかよく、わらってせいかつするからみていてね。

だいすきなひいおじいちゃんへ。よしみより。

審査員のコメント

●大好きだったひいおじいちゃんとのお別れが、尊敬と感謝の気持ちへとひろがり、それが家族の絆へと昇華しています。この子の真のやさしさが、ひと言、ひと言にあらわれ、心を打たれます。(橋本先生) ●大家族が少なくなった今、ひいおじいちゃんとの接触が減ってきています。四代続くファミリー、貴重です。大切なお米文化も確実に引き継がれています。この作文はきっと天国のひいおじいちゃんに届いているでしょう。あなたを見守ってくれていますよ。(明石先生)

優秀賞

「お母さんへのありがとうの手紙」

香川県 ^{とみた}富田 ^{けんすけ}健介さん 小学2年生

ぼくが、かんしゃの気もちをつたえたいのは、お母さんです。りゆうは、まい日いそがしく、はたらきながら10さいのおにいちゃん5さいの妹、ぼくの三人のせわをしてくれるからです。そして、「ありがとう」をときどきお母さんにつたえているけれど、こうして手紙をかくことはなかなかないので、かいてみようと思います。

さいきんのお母さんはまいあさ5時におき、きょうだい三人のおべんとうを作り6時30分にはかいしゃにでかけています。夕がた6時にはしごとからかえってくると夕しょくのしたくで

す。夕しょくのじかんはお母さんと、ゆっくり話ができるときです。ぼくはここぞとばかり学校であったことを話します。きょうだい三人がお母さんに話を聞いてもらいたくていっせいに話しをするものだから、お母さんも「ちょっとまってじゅんばんじゅんばん。」お母さんは耳が6つあればいいのにとよくいっています。こうして、手紙をかくとあらためて、ありがとうというきもちになりました。こんどは、お父さんにもかいてみようとおもいます。

審査員のコメント

●お母さんへの感謝と愛情が素直に表現されている。お母さんにゆっくり話ができる夕食ときは筆者の最も嬉しい時間。きょうだい3人が我先にと母親におしゃべりする姿が鮮やかに浮かび上がり、読むものを幸せ気分にくれる。読者を惹きつけるような魅力ある作文である。(内田先生) ●子供は親の背中を見て育つと言われます。まさにこの作文がそうです。お子さんを三人抱えて一生懸命働く母親の姿を見ている。忙しい母親もユーモアがあります。子供との関わり合いを大切にしています。「ありがとう」の言葉に愛がつまっています。(明石先生)

優秀賞

「ぼくの命綱」

大阪府 ^{むらた}村田 ^{あさと}亜聡さん 小学6年生

ぼくは、いじめによるPTSDと診断されて、学校に行きたくても行けない状態になった。なかなか周りの人に理解してもらえなくて、何度も死にたいと思ったけど、家族がいたからふん張れた。

お母さんからは、「自分の人生だから、自分で決めなさい。絶対に支えるから。」

お父さんからは、「夢を叶えるためにがんばれ。」

妹からは、「家族は助け合い。」といつも言われる。ぼくが、どうしたいかわからなくなった時は、家族がいくつかの道を示してくれる。ぼくが幸せ

じゃないと家族も幸せじゃない事も教わった。どんなに苦しい事があっても、家族がいるから、勇気を出してがんばれる。ぼくにとっての命綱は家族だ。この家族の一員としていられる事だけで幸せだ。いじめられた事で失った物も多かったけど変わらない大切な物にも気づけた。どんなに苦しい事があっても、心から大事に想ってくれる人がいるだけで、大きな力になる。どんな事でも乗り越えていこうと思う。家族と一緒に。

審査員のコメント

●家族の存在の大切さが強い説得力を持って伝わってくる作品である。命綱という言葉は非常に印象的である。作者とその家族を心から応援したくなる。(坂元先生) ●苦しさを乗り越えてふん張ることは、大人でも難しいんだ。家族がいたからふん張れた、というところにたどり着けたのはとても素敵なこと。これからも、あなたがあなたのまんまであることの価値を、どうか信じ続けて！(松田先生)

優秀賞

「おやじのかいのおとうさんたちへ」

茨城県 ^{やまうち}山内 ^{みのり}みのりさん 小学1年生

なつやすみ、がっこうできゃんぷをして、すごくたのしかったよ。こうていとまるなんてゆめみたい。てんとのなかでうのであそんで、みんなですっとおはなししてたら、なかなかねむれなかった。

きもだめしがこわかったせいかもしれない。といれのどあがかってにあいて、なかからさかさまにんげんがでてきて、はんちょうさんのせなかにだきついていたけど、ちょっぴりないちゃった。

ながしそうめん、たのしかったな。ふる一つはつかみにくかったけど、はんのなかまがとってくれた。

わたしはひとりっこだから、きょうだいがいるみたいでうれしかった。

おやじのかいのおとうさんたち、きゃんぷをひらいてくれてありがとう。また、らいねんもたのしみにしているので、がんばってやってください。だけど、きもだめしはやめて。おもいだすだけでこわいから。

審査員のコメント

●「おやじの会」の活動により、子供が素晴らしい時間を過ごしたことが生き生きと描かれている作品である。父親の育児参加や地域のつながりの貴重さが感じられる。(坂元先生) ●こうていでとまるなんてゆめみたいだ。それをじつげんしてくれたおやじのかいのおとうさんたちはすごいよね。それにしても、おもいだすだけでこわい「きもだめし」は、ちょっとだけ、のぞいてみたいなあ。こわいけど。(松田先生)